
エリカとジュナン

灯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エリカとジュナン

【Nコード】

N8927Y

【作者名】

灯

【あらすじ】

山本エリカ高校一年生。

野望を抱きいざ入学。

野望―それは優しい人と相思相愛の恋人になること!!

そのはずが…入学式に失態をおかし、その後ことごとく邪魔をされて…果たしてエリカに恋人はできるのか!?

プロローグ

そびえ立つビル。

にぎわう雑踏の中一人の少女がいた。その姿はそわそわと落ち着きなく、周りを見ているその頬は紅潮していた。

初々しくデートなのかと思えば、どうやら違うようでちょこちょこ場所を移動している。

そんな少女の肩にぽんと手が置かれた。

——きたっ！！

「ねえ彼女暇なの？」

「は、はい——」

暇ですと続けるために、笑顔で勢い良く振り向いたが、言葉が最後まで紡がれる前に、体ごと笑顔も凍り付いた。

振り向いた先にいたのは整った顔。長いまつげにくっきり二重。

唇は瑞々しく、男であれば貪りつきたくなるものだ。

「どうした？」 伺うように傾けた頭からサラサラの髪が流れ、その人物はにっこりと微笑んだ。

これも男なら目がハートになっていたであろう程美しく、可愛い。いや、女であろうと同じだろう。

が、少女にとっては違うらしい。

「なっとなんでっ！ あんたがここにいるのよぉ——！」

蒼白になった少女の声が街に響いた。

「あ？なんでって買い物だけど。まあ山田がここに来れば面白いもんが見れるとは言ってたけど……」 トモちゃんっ！！何て事を言ってくれたんだ！と恨んでみたが、状況は改善されるわけもない。

とりあえずここは逃げるしかないと「あら、そうなの？じゃあまたね」と爽やかに立ち去ろうとすると肩を掴まれてしまった。

「まあまあ暇なんだろう？つき合えよ」

ビクリと肩を揺らした瞬間後ろから若い男が声を掛けてきた。

「ねえ、彼女たち暇なの？暇なら一緒に遊ばない？」

頬を赤くした男たちは少女―エリカの隣にいる人物をチラチラと見ながら話してくる。

「だつてさ、どうする？」

にやりと意地の悪い笑顔を浮かべながら聞いてくるそれを見てエリカは耐えきれず、やや涙を浮かべて叫んだ。

「いつ行くわけないでしょお！！」

だつてさ、と声を掛けてきた男たちに言つと残念そうにその場を去っていく。

「おい、いいのか？ナンパ待ちだつたんだろ？」

にやにやと、これまた意地の悪い笑みで言うものだからエリカはついにキレてしまった。

「う、うるさい！！なつ何で男のあんたがモテんのよお！！」

そう。この意地の悪い笑顔をしている人物は正真正銘の男だ。

「しょうがないだろ。綺麗なんだから」

につこりと言われて言い返したいが、真実のため言い返せず歯噛みをするしかない。

「…しょうがないから可哀想なエリカに付き合つてやるよ。またケ―キ食うんだろ？」

ため息をもらしながらいうその姿にさらにイライラするが、この悔しさは甘い物を食べて紛らわさなくてはやっていられず「当たり前でしょう」と叫んだ。

悔やんでも仕方がないが、何でこんなことに…と過去に思いを馳せるエリカだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8927y/>

エリカとジュナン

2011年11月26日21時51分発行